

## 平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	5S活動を中心とした「規律・躰(しつけ)」教育における学生生活動評価基準の構築		
法人名	学校法人 浦山学園		
学校名	富山情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 浦山 哲郎	担当者 連絡先	小平 達夫 TEL 0766-55-1420

### 1. 事業の概要

専門学校に入学してくる学生たちの「行動規範 [規律・躰 (しつけ)]」は年を追うごとに個人差が広がると同時にその質が低下してきている。また、企業の求める人材像にもこの要素が多く含まれるようになった背景には、今までの「行動規範 [規律・躰 (しつけ)]」教育が決して十分だったとはいえない事を指摘している。

個人差が広がり、質の低下が急速に進みつつある、「学力」「経験値」「価値観」「行動規範 [規律・躰 (しつけ)]」の中でも、今後の人格形成・キャリア養成に大きな影響力を持つのは「行動規範 [規律・躰 (しつけ)]」であると思われる。

本来、規律や躰 (しつけ) は、幼児期に養われるのが望ましいが、職業人として社会に出る前の最後の教育機関として、敢えてこの課題に取り組むものとする。なぜなら、前述したように企業が求める人材の要素の多くは、この「行動規範 [規律・躰 (しつけ)]」に象徴されているからである。

本事業の中軸を「5S活動」とし、学生と一体となった活動を見据えたスキル標準を構築し、その活動を正しく公平に評価できるスケールを作成し、真に企業が求める人材になれるような教育プログラムを構築する。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ① 目的・重点事項の達成状況

##### 【調査】

各専門学校が行っている規律・躰(しつけ)教育の具体的な取組みとそれぞれの取組みが与える影響について知ることができた。また、合わせて規律・躰(しつけ)教育も含めた学校全体における問題点や課題も浮き彫りになった。

発送数300校に対し、回収数77校(回収率25.7%)はアンケートとしては高い回収率であり、アンケートの内容からも、各学校の規律・躰(しつけ)に対する興味の高さが伺い知ることとなった。

##### 【スキル標準マトリックス】

アンケートを元に作成されたスキル標準は小学生レベルのものとなった。実施委員の間でもそれについては十分に検討を行ったが、小学生ができていないことが専門学校生はできていない、当たり前なのが当たり前でできることの大切さを改めて共通理解した。小学生ができていないことができていない現実から目を背けることなく、今一度、キャリア教育に大切なものを教員が意識するためのルーツとして活用できると思われる。

##### 【カウンセリングデータベース】

スキル標準マトリックスの内容を学生と教員がそれぞれ評価し、カウンセリングする際のコミュニケーションツールとして活用するためのデータベースを作成した。

これは、入力することが目的ではなく、あくまでコミュニケーションツールである。当然教育的指導はその場で注意する、コミュニケーションはアナログ的であることが基本であり望ましい。本データベースは通常のそれらを補完するためのものである。

また、記録することにより、本人の変化や教員の評価とのギャップを知ることにも活用できる。

#### ② 事業により得られた成果

##### ■ スキル標準マトリックス

教員一人ひとりの価値観も違い、またその範囲も広いものである。規律・躰(しつけ)が重要であることは分かっているにもかかわらず、統一した指導を行うことが難しい現状にある。各人の価値観にだけ任せることなく、全員が同じモノサシを持って指導できるようなスキル標準を作成することができた。

【スキル標準マトリックス】

基本項目	具体的取組内容	評価	評価者	評価場所	カウンセリング
挨拶 	職員室入室退室時のあいさつを正しく行う	4・3・2・1	全教職員	自己 職員室	毎月
	授業開始・終了の立礼を行う	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	登校・下校時に先生や学生間であいさつを行う	4・3・2・1	全教職員	自己 校門など	毎月
	来校者にあいさつを行う	4・3・2・1	全教職員	自己 全館	毎月
	名前を呼ばれたら返事をする	4・3・2・1	全教職員	自己 主に各教室	毎月
5S (整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) 	授業終了後、机の上・中・周りのゴミを片付け、机、椅子を正しく整え、使用したものは元に戻す	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	ゴミは決められた通り分別して捨てる	4・3・2・1	自己	全館	毎月
	自分の荷物は毎日持ち帰る	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	落ちていたゴミを拾う	4・3・2・1	自己	全館	毎月
	共有スペース使用後は片づけを行い、元の状態に戻す	4・3・2・1	自己	全館	毎月
マナー・身だしなみ 	喫煙マナーを守る	4・3・2・1	全教職員	自己 全館	毎月
	学校に電話をかける場合はまず自分の名前を名乗る	4・3・2・1	全教職員	自己 ー	毎月
	勉学にふさわしい身なりを心がける(スウェット、サンダルはひかえる)	4・3・2・1	全教職員	自己 全館	毎月
授業規律 	チャイム前に着座する	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	居眠りや私語はしない	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	授業に必要なものは机の上に置かない	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	発表者の方を見て、他人の意見をきちんと聞く	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
	授業には前向きに参加し、質問や発言などを積極的にを行う	4・3・2・1	授業担当教員	自己 各教室	毎月
その他活動 	学校行事やボランティア活動に積極的に参加する	4・3・2・1	担任	自己 ー	毎月
	就職活動に積極的に取り組む	4・3・2・1	担任	自己 ー	活動時
	資格取得や技能修得に積極的に取り組む	4・3・2・1	担任	自己 ー	毎月

4. 社会人として通用するレベルでできている  
 3. できている  
 2. あまりできていない  
 1. 全くできていない

■ カウンセリングデータベース

教員と学生はこのデータベースをコミュニケーションツールとして活用しながら、目標の共有、指導の方針、行動の振り返りを毎月行えるものである。

本人評価も入力し、自分ではできていると思っても回りから見るとどうであるかというギャップを知ることができるツールである。

※本データベースは、LOTUS Notesにて開発したオリジナル設計である

【カウンセリングデータベースサンプル】

規律・しつけ教育における評価						
0604001 中村俊介 【規律・しつけ教育】						
記入日「2008/02/01」						
評価教員「Yumiko Tani」						
基本項目	取組内容	教員評価	本人評価	教員コメント	本人コメント	
あいさつ	職員室入室退室時のあいさつを正しく行う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	授業開始・終了の立礼を行う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	登校・下校時に先生や学生間であいさつを行う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	来校者にあいさつを行う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	名前を呼ばれたら返事をする	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
5S (整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)	授業終了後、机の上・中・周りのゴミを片付け、机、椅子を正しく整え、使用したものは元に戻す	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	ゴミは決められた通り分別して捨てる	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	自分の荷物は毎日持ち帰る	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	落ちていたゴミを拾う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	共有スペース使用後は片づけを行い、元の状態に戻す	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
マナー・身だしなみ	喫煙マナーを守る	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	学校に電話をかける場合はまず自分の名前を名乗る	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	勉学にふさわしい身なりを心がける(スウェット、サンダルはひかえる)	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
授業規律	チャイム前に着座する	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	居眠りや私語はしない	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	授業に必要なものは机の上に置かない	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	発表者の方を見て、他人の意見をきちんと聞く	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	授業には前向きに参加し、質問や発言などを積極的にを行う	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
その他活動	学校行事やボランティア活動に積極的に参加する	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	就職活動に積極的に取り組む	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
	資格取得や技能修得に積極的に取り組む	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1	評価	評価	
教員総評	評価					
本人総評	評価					

氏名	年	月	評価者	あいさつ (数員)	あいさつ (本人)	5S (数員)	5S (本人)	マナー (数員)	マナー (本人)	授業規律 (数員)	授業規律 (本人)	その他 (数員)	その他 (本人)	教員総評	本人総評
▼中村俊介															
	2007	4	Yumiko Tani	1.4	1.6	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	5	Yumiko Tani	1.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	6	Yumiko Tani	1.2	1.8	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	7	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	8	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	9	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	10	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	11	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2007	12	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2008	1	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2008	2	Yumiko Tani	1.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

年月の昇順で表示される。

それぞれの基本項目の平均点を教員評価、本人評価のそれぞれで表示。

### ③今後の活用

本校で運用中の学生個別カルテに組み込んで試験運用を行う予定である。来年度以降もカウンセリングデータベースの改訂・修正を研究する予定である。また、Notesで対応しきれないグラフ表示などについても他ソフトウェアに変換して活用できる方法を研究予定である。

### ④次年度以降における課題・展開

- ・各項目に対する評価基準の統一(教員資質の向上)
- ・教員の負担削減
- ・教員と学生の双方向でのデータ活用(個人情報、セキュリティ)
- ・5S活動のカリキュラム化

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

#### ■調査の目的

各専門学校でどのような「規律・躰(しつけ)」教育が行われ、どのような効果があるのかを伺い、「規律・躰(しつけ)」教育における評価基準の構築に役立てるため。

#### ■調査概要

- (イ)調査方法 アンケートを郵送にて送付(回答はFAXにて回収)
- (ロ)調査期間 平成19年11月19日～12月3日

#### ■調査の対象

- (イ)発送先 300校(財団法人専修学校振興会学校名簿より各分野より無作為にて抽出)
- (ロ)回収率 77校(有効回収率 25.7%)

#### ■調査の内容

各専門学校における「規律・躰(しつけ)」教育の一環として行っている具体的な取り組みの中で、重要度の高いものから順に5項目記入し、それぞれの取り組みが与える影響を伺った。  
また、合わせて「規律・躰(しつけ)」教育における問題点や課題なども伺った。

#### ■調査結果

##### (イ)分類別具体的な取り組み内容

アンケートの具体的な取り組み内容があるキーワードで分類すると、おおよそ「挨拶」、「5S」、「身だしなみ」、「時間」、「コミュニケーション」、「マナー・礼儀」、「ビジネスマナー授業」、「就職指導等」、「言葉遣い」、「クラス運営」、「その他」となる。中でも「挨拶」と「5S」(整理、整理整頓、清掃、掃除などのキーワードを含む)は最も多く、「挨拶」は65%近くの学校が規律・しつけ教育の一環として行っていることになる。「5S」についても56%近くと高い数値になっている。

また、分野別に見てもほとんどの分野で全体の分類と同様「挨拶」続いて「5S」の数値が高くなっている。

ただし、衛生分野では理容美容や調理などの専門学校においては、衛生面における教育を強く行っている傾向が見られ、分類では「挨拶」より「5S」が高い数値になっている。文化・教養分野でも同様に「5S」が「挨拶」より高い数値となっており、デザイン、ファッション、ペットなどの専門学校でも衛生面や整理・整頓が教育の現場において重要であることが伺える。

##### (ロ)取り組みが与える影響

(a)知識の向上

規律・しつけ教育におけるそれぞれの取り組みが与える影響として「知識の向上」はいずれも低い数値となっており、分類別に見ても大きな差は見られない。このことから規律・しつけ教育と「知識の向上」のつながりはあまりないと考える学校が多い。

(b)意欲の向上

「挨拶」や「5S」に分類された取り組みが比較的多く「意欲の向上」に影響を与えていると考えられる。分野別で見たときには、衛生分野では「身だしなみ」が影響力が強い傾向がある。

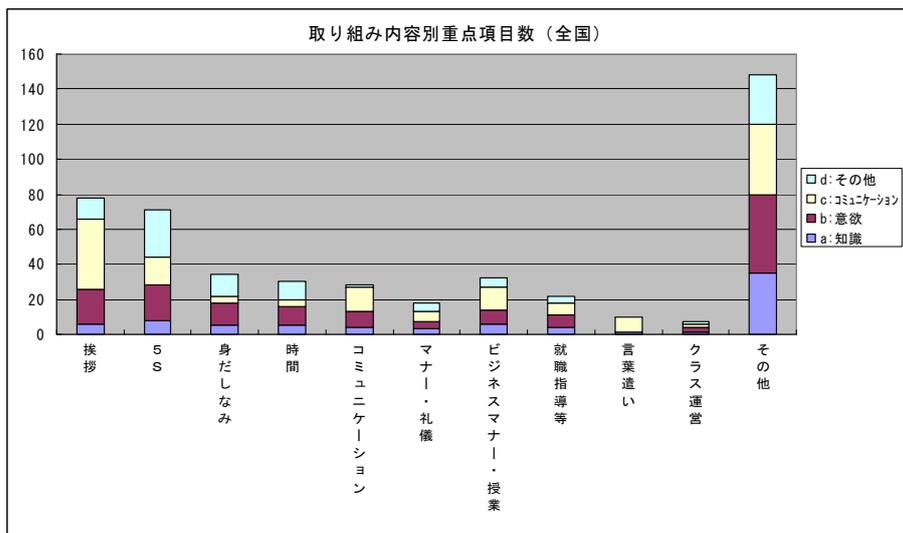
(c)コミュニケーション能力の向上

「挨拶」に分類された取り組みが大きく「コミュニケーション能力の向上」に影響を与えていると考えられる。分野別で見ても同様の傾向がある。

(d)その他

取り組みが与える影響として、「その他」として上げられたものは、「挨拶」に分類された取り組みでは、「マナー」や「規律」というキーワードが多くでてきている。「5S」に分類された取り組みでは、「マナー」「思いやり」「気付き」「協力性」などが与える影響として上げられた。

順位	項目	記載校数	ポイント
①	挨拶	延べ50校	214ポイント
②	5S	延べ43校	134ポイント
③	身だしなみ	延べ23校	74ポイント
④	時間	延べ21校	76ポイント
⑤	コミュニケーション	延べ14校	48ポイント
⑥	マナー・礼儀	延べ13校	46ポイント
⑦	ビジネスマナー・授業	延べ15校	60ポイント
⑧	就職指導等	延べ12校	35ポイント
⑨	言葉遣い	延べ9校	32ポイント
⑩	クラス運営	延べ5校	17ポイント



②カリキュラムの開発

今年度カリキュラムの開発はなし。

③-1 実証講座

■概要

成果報告書の内容確認およびカウンセリングデータベースの操作性、内容、項目の精査を目的に実施された。実際に専門学校への導入を目的にグループウェアはノーツにより実施した。

(イ)実施日時 平成20年2月14日(木) 16:00～17:30

(ロ)実施場所 新宿ワシントンホテル

(ハ)対象者 アンケートのご回答を頂いた専門学校教職員

(ニ)担当講師 小平 達夫・谷 優美子(所属:富山情報ビジネス専門学校・ジェック経営コンサルタント)

- (ホ)告知方法 書類郵送にて告知・案内  
(ヘ)受講料 無料  
(ト)参加者 14名(専門学校教員9名、企業関係者4名、委員長1名)  
(チ)検証方法 参加者による評価結果の検証、実施委員及び分科会委員による評価結果の検証

■実施内容

当日の実施内容(タイムテーブル)は以下のとおりである。併せて次のページに実施の様子を示す。

時間	内容
16:00~16:30	<概要説明>
	・委員長挨拶
	・本事業の概要説明
16:30~17:00	・カウンセリングデータベース操作
	・評価(精査)
	・修正点等検討
17:00~17:30	<まとめ>
	・質疑応答

実施委員長のあいさつ





#### ■実施結果

検証講座の中または終了後の意見として、次のようなものがあがった。

- 一目でどこが上がったか、下がったかが分かるような工夫が必要。数字だけでは見づらいので、例えばグラフに表示するなど。
- 評価する際に、前回の評価が出てこないと全部一から入力するとなるととても無駄ではないか。例えば、前回入力したデータが出てきて、今回一部変えると変えたところだけ色が変わるなどして、今回ここが変わったということが分かる形がよい。
- 成績とリンクしないのか
- 躰や指導は数字では出せないもの。言葉の記録になるはず。
- 昨日その前、明日、明後日が見比べることができれば使い勝手がいい。
- 基準は人によって全部違うから、誰を基準にしているのか分からない。
- もっとやり易くしたら使い易くなる。細かすぎる。
- 毎月やらないといけないのか
- 教員の負担を増やさないものがよい
- 教員の資質向上に繋がるような運用が望ましい

### ③-2 成果報告会

#### ■概要

- (イ)実施日 平成20年3月4日(木) 10:00～10:50  
時  
(ロ)実施場 ホテルメトロポリタンエドモント  
所  
(ハ)対象 専門学校関係者および企業の方々など  
者  
(ニ)参加 59名  
者  
(ヘ)発表 浦山委員長、永井、小平  
担当

(ト)発表内  
容

- ・実施委員長あいさつ
- ・事業概要の説明
- ・カウンセリングデータベースの説明
- ・高岡委員の総括

最終的には運用する教員のレベルあるいは教員としてのスキルが必要であり、当ツールを教員のレベルアップ、スキルアップに活用していきたい。





#### ④その他

本来、幼児期、児童期、思春期にそれぞれ家庭や社会の中で培われるものであると考えられる規律や躰(しつけ)を、敢えて取り組むことが一つの大きな特長であると考え。また、その取り組みを「5S活動」を中心に行うことで、単なる規律・躰(しつけ)教育ではなく、真に社会に望まれる人材を育成するプログラム構築を目指すところがもう一つの特長であると考えている。それについては、実際に「5S」を積極的に導入している県内企業3社を実施委員に迎え企業(採用)側からの観点でのご意見も多く頂いた。